

描いた動物は……シカとふくろう！



## ミネ・クレイン

1917（大正6）年生

1992（平成4）年没



【KURE ZOO 出展作品】

《鹿》1980年

《夕焼け》1982年

【参考文献】

・『呉線沿線の美術』展図録

呉市立美術館、2007年

・「close up」、『週刊文春』

1974年10月25日号、文藝春秋社

### 1. ミネ・クレインってどんなひと？

ミネ・クレインは呉市出身の女性画家。クレインは結婚後の姓で、旧姓は澤原。れっきとした日本人なのです。祖父と曾祖父は貴族院議員、叔父は呉市長をつとめた人物でした。1954年の秋、ミネは友人の紹介でアメリカの大富豪コーネリアス・クレインと出会い、翌年結婚。アメリカへ渡りました。クレイン財閥は、ロックフェラーやフォードと並ぶ大財閥で、アメリカで初めてバスタブとトイレトペーパーを売り出したことで知られています。コーネリアスはその3代目でしたが、事業からは手をはなし、ミネと世界中を旅して悠々自適に過ごしました。

### 2. 絵筆をとったのは50歳を過ぎてから

幸せな日々を過ごしていたミネですが、結婚生活は夫の死によってわずか7年で終わってしまいます。傷んで数年間を過ごしたミネが絵を描き始めたのは1967年頃、50歳を過ぎてからのことでした。「夫に先立たれた寂しさから、一緒に遊んだ湖の白鳥を描いたのがはじまり」と語っています。それまで絵を習った経験もなく、まったく自己流の作品でしたが、それを知人の画廊で展示するとすぐに買い手がつかしました。その後もアメリカやパリ、そして日本で個展を開き、またたく間に人気画家になりました。

### 3. ミネの華麗なる生活

アメリカで十指に入る大富豪の夫人となったとだけあって、ミネの暮らしは優雅そのもの。夫の死後は、ニューヨークの高層マンションの2フロアを借り切ってそこで生活し、週末は世界中にある別荘で過ごしていました。ニューヨークでの生活はパーティーを開いたり、オペラや芝居を観に行ったり。毎朝フルートを吹き、シェパード犬の「ハチ」と「ポチ」と気ままな生活……。しかし、ひとたびアトリエに入ると、絵画制作に没頭しました。

### 4. 動物たちが遊びにくる庭

今回展示する《鹿》は、マサチューセッツ州の別荘の庭にやってきた一頭の鹿を描いたものです。広大な敷地の中には、森や草花があり、小鳥をはじめたくさんの動物たちがやってきて、それらがミネの描くモチーフになりました。つねに絵に語りかけながら、描く対象の気持ちを考えながら制作していたというミネの作品は、童話的で夢の中にいるような気分させてくれます。皆さんも、ぜひ展示室で作品との対話を楽しんでください。